

# 令和2年度「大隅史談会」現地研修会

## 道隆寺跡・柳井谷の陣跡・高山城跡（肝付町新富本城）

### 1 開催日時

令和2年11月15日（日）10時～15時 \* 小雨決行

\*\* 雨の場合は、集合場所で写真や配布資料等を使って説明し、弁当を食べて解散とします。ただし、雨の程度によっては道隆寺を見学することもあります。

### 2 集合時刻と集合場所

① 集合時刻 9時30分

② 集合場所 肝付町本城集落センター(鹿児島県肝属郡肝付町新富 9110)  
内之浦へ続く県道 561 号沿いにあり、目印になる大銀杏があります。

### 3 参加費

弁当代・保険代・資料代込みで、1,000 円（当日に徴収）

### 4 研修内容

① 研修場所（概要説明は次頁より）

- ・柳井谷の陣跡：1506年、島津忠昌が高山城主の14代・肝付兼久を攻撃した時の本陣跡。
- ・高山城跡：18代にわたりこの地を治めた肝付氏の本拠地で、1945年に国の史跡に指定。
- ・道隆寺跡：鎌倉時代に宋から渡来した禅僧・蘭溪道隆が1246年に開いた日本初の禅寺の跡。

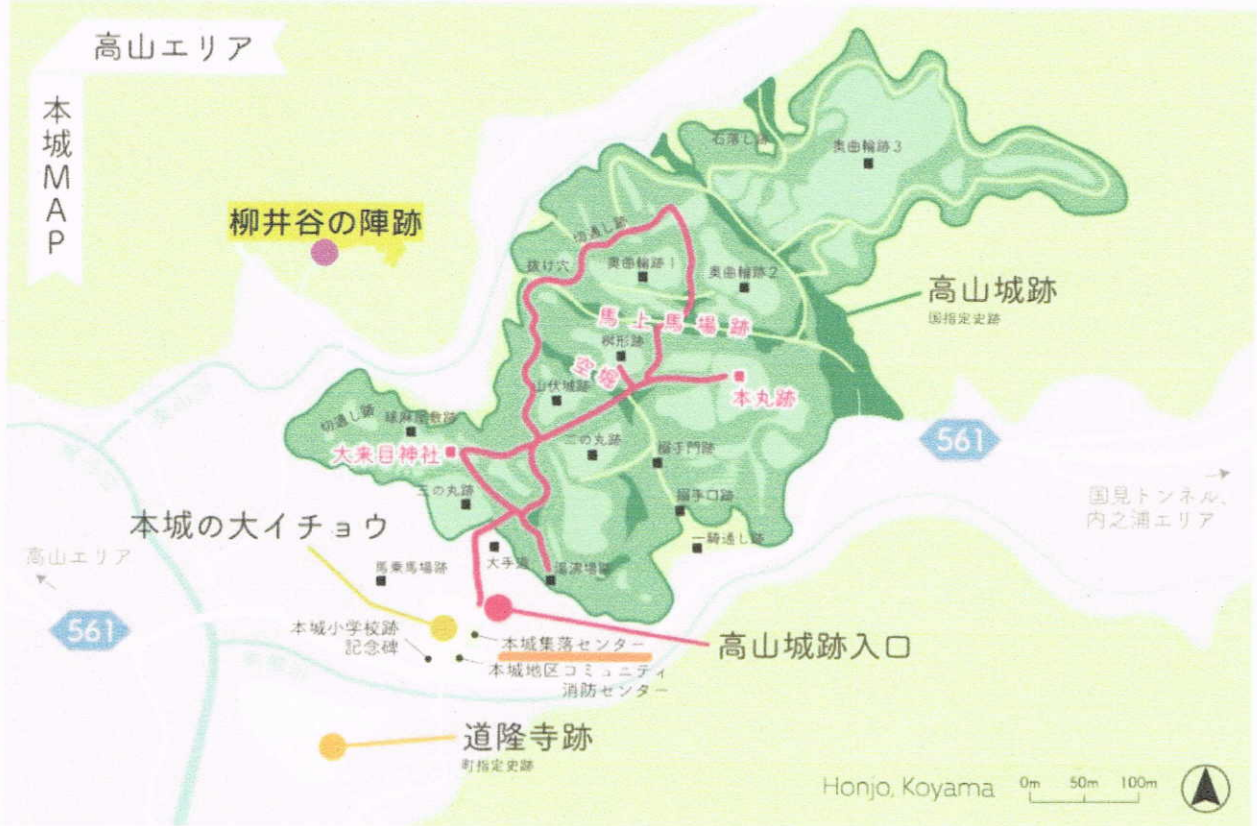
② 案内・説明担当者

福谷 平

### 5 研修スケジュール（晴天～小雨の場合）

時刻	内容
10:00～	「柳井谷の陣跡」 「高山城跡入口」→「湯沸場跡」→「大来目神社」→ 「球磨屋敷跡」→「櫛形跡」→「馬乗場跡」→ 「本丸跡」→「搦め手跡」→「一騎通し跡」
12:00～	「本城集落センター」で昼食（弁当）
13:00～	「道隆寺跡」
14:40～	「本城集落センター」（記念写真撮影）
15:00	解散

## 6 研修場所の地図（肝付観光協会の地図を加工）



## 7 研修場所の概要説明

### ① 柳井谷の陣跡

柳井谷の陣跡は、永正3年（1506年）に11代島津忠昌が高山城主の14代肝付兼久を攻撃したときに、本陣とした所です。約2ヶ月かけた大合戦で、両軍の放つ矢は空中でぶつかり、折れた矢が谷間に散乱しました。土地の人々は、この谷間を「矢おれ谷」と呼んでいましたが、それがなまって「柳井谷」と言うようになったそうです。この合戦では、肝付氏を支援する軍勢が多く、高山城は陥落せず、島津軍は鹿児島に引きあげました。合戦後、土地の人々が折れた矢を拾い集めて塚に納めました。その塚を「矢塚」と言い伝えてきました。



### ② 高山城跡

高山城跡は肝付町新富本城にあり、18代にわたりこの地を治めた肝付氏の本拠地でした。肝付氏は、薩摩を治める役人として安和元年（968年）中央政府から派遣された伴兼行を先祖とする一族です。伴兼行のひ孫にあたる兼俊が長元9年（1036年）この地に移り住み統治し、肝付姓を名乗ったのが一族の始まりです。

戦国末期の16代肝付兼統は、肝付家の領国を最大（12万石）にまで広げ、日向の南郷を制圧するなど、ほぼ大隅半島を制するほどの勢力を誇っていました。肝付氏は天正



2年(1574年)に僧・其阿(きあ)の仲介により島津氏と和睦しました。天正8年(1580年)に阿多(現在の南さつま市金峰町)へ移封されることになりました。

高山城の築城時期については諸説あります。不落の名城で、文献の上では14代・肝付兼久が叛いたと言って、島津氏11代忠昌が自ら柳井谷に本陣を構えて、永正3年(1506年)8月6日から10月12日まで攻撃したが攻略できなかったという記録が残っています。

高山城は周囲を3つの川に囲まれ、中古以来の騎馬戦を主とする攻防戦(山岳戦)には理想的な険しい城砦です。城内は本丸・二の丸・山伏城・奥曲輪などが空堀で区画され、大来目神社・枅形・馬乗馬場・湯沸場・土塁・搦手(からめて)・岩石をくり抜いた切り通し・大手門などがあります。また、城の西側の低地には土小路・弓馬地・馬乗馬場があり、総面積50ヘクタールの大規模な城です。

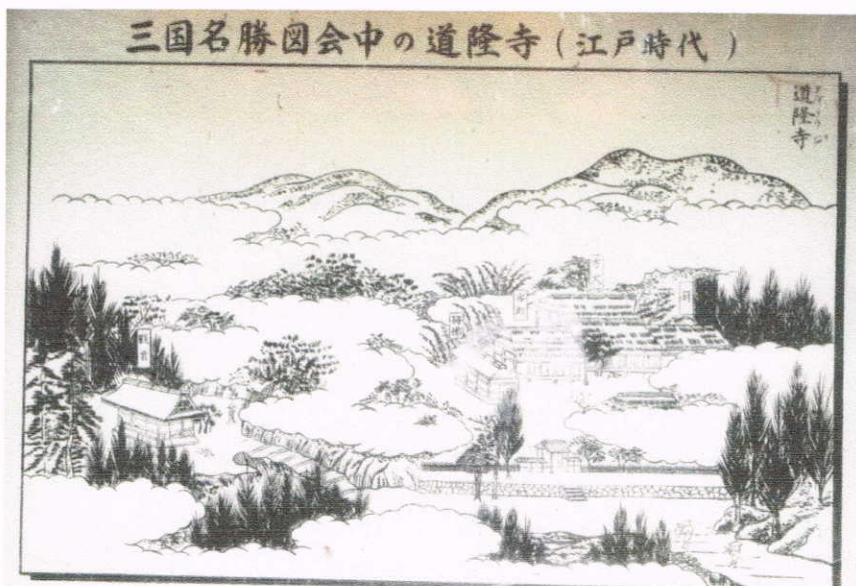
高山城跡は中世の城郭として学術上貴重な文化財といわれ、昭和20年(1945年)に国指定史跡となりました。

		
球磨屋敷跡	湯沸場跡	空堀
		
枅形跡	本丸跡	二の丸跡

\* 上記写真は、YouTubeの『難攻不落の山城「高山城」』(きもつきチャンネル)より借用

### ③ 道隆寺跡

日本で最初にできた禅寺「道隆寺」の跡です。寺の全てが明治初期の廃仏毀釈で徹底的に破壊されたため、跡地として残りました。江戸時代の三国名勝図会には、破壊される前の寺の姿が描かれています。





道隆寺は、鎌倉時代の寛元4年（1246年）、南宋の禅僧である蘭溪道隆（大覚禅師）が開山しました。7年後の1253年に、鎌倉幕府第5代執権の北条時頼に請われて、蘭溪は鎌倉へ赴き、臨済宗建長寺派の大本山である建長寺を開山しました。

「肝付観光協会」のホームページには、現在の寺跡の様子が以下のように書かれています。「本堂などがあった場所は水田になっていますが、林の中には観音堂跡があり、仁王像、ヤグラに刻まれた磨崖五輪塔、宝塔、経塚、六地藏塔、無縫塔（むほうとう）、灯籠、鎌倉時代から戦国時代に至る数多くの五輪塔が古い歴史を物語っています。」その他に禅僧の墓、琉球国僧之墓、廃仏毀釈時に地下にかくされていた地藏菩薩などもあります。

		
五輪塔他	灯籠	六地藏塔

平成18年（2006年）に6代島津氏久と7代元久の逆修供養塔（本人が生前に建てた供養塔）が発見され、肝付氏と島津氏の関係が良好な時期があったことがうかがえます。11代忠昌の供養塔は柳井谷の陣（忠昌の本陣跡）の下、淵輪から移設したものです。

		
6代・7代島津氏逆修供養塔	11代島津氏逆修供養塔(移設)	道隆禅師像と事跡碑

秋には植えられた多くの紅葉が色づき、素晴らしい景観になります。

平成21年（2009年）からは、鎌倉五山の中心的存在である建長寺の管長をはじめとする建長寺の関係者が道隆寺を訪れています。

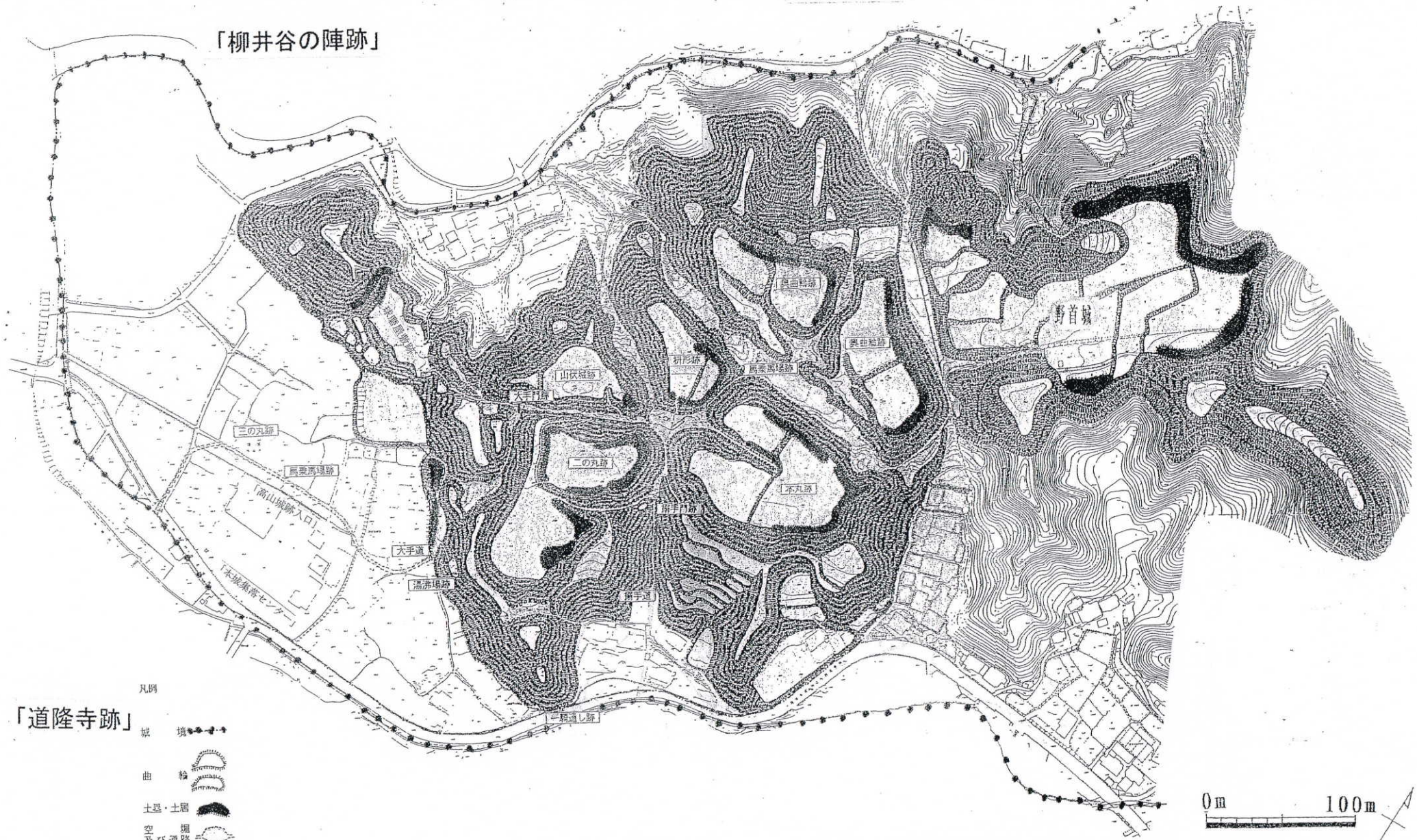
以上

# 永正3年肝付方陣立て





大隅国高山城中核部略図(縄張図)

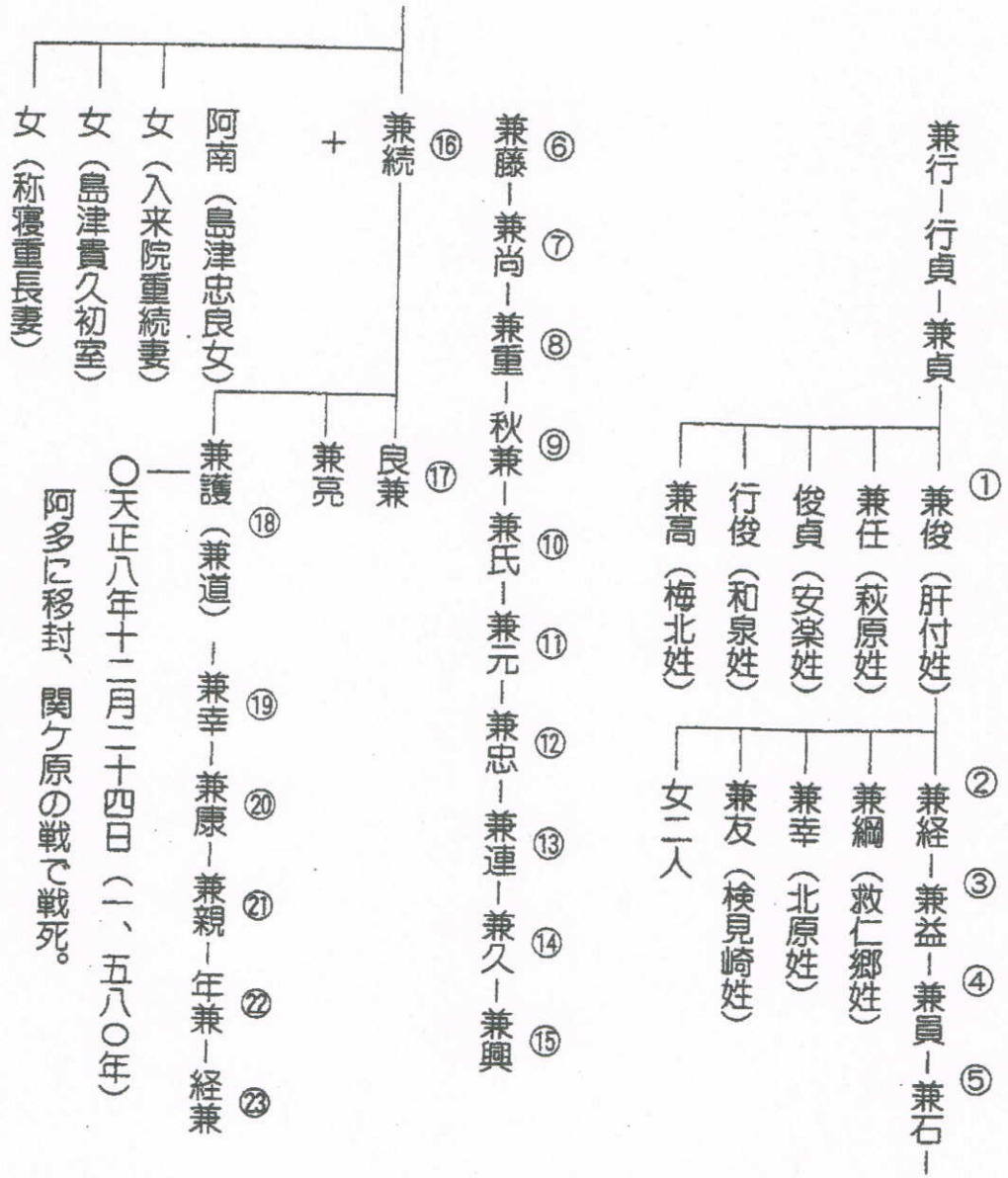


〔高山町教育委員会「史跡高山城跡遺構状況図(推定)」原図〕



肝付氏略系図

○ 兼行以降の肝付氏の系図



治兼 ⑳ 兼群 ㉑ 兼命 ㉒ 兼明 ㉓ 兼施 ㉔ 兼寛 ㉕ 兼亮 ㉖ 兼冬 ㉗ 兼達 ㉘